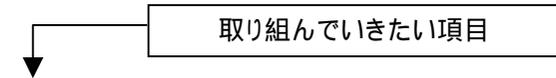


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人秩父福祉会の基本理念、白砂恵慈園三訓を基に、グループホームの特性を生かした目標を作っています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の申し送りの時、白砂恵慈園三訓を唱和し、理念の確認を行い、実践に向けて日々取り組んでいる。 1. 笑顔で挨拶をしよう。 1. 相手の立場にたって考えよう。 1. お世話をさせて頂く事に感謝しよう。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内に理念の掲示を行うとともに、ホームだよりやパンフレットに記載し案内しております。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩の時など、気楽に隣近所の人と話したり、ホームに立ち寄って頂く人もいます。 散策範囲内の職員が4名おり、知り合いの多い地域で、話しやすい環境にあります。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のコミュニティと協力し、道路の花植えや、小川の草刈など、グループホーム周辺の美化に努めています。 近所の、習字の先生にボランティアをおいで頂き、毎月1回、習字教室を開いて、廊下に掲示しています。 散策の時に、道路のゴミ拾いをしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の食生活改善推進活動や、地域のミニデイに協力している職員もいます。</p> <p>市報の配布、農家組合の配り物などで、各家庭を訪問する時に、安否確認のひと声をかけて歩きます。</p>		
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価をする事により、日々の業務、行動を振り返り、意識改革を行い、改善に取り組んでいます。</p> <p>評価の意義等を職員会議で話合っています。</p> <p>外部評価で指摘して頂いた項目について、全員で取り組んでいます。</p>		
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>グループホームの状況を報告し、意見をいただいています</p> <p>活動状況をもっと家族に報告した方が良いのではないかと、の意見をいただき、利用者さまの様子を、毎月担当者が記録し連絡するようになりました</p> <p>ひなた新聞の行事報告を細かく行うようにしました。</p>		
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市役所総合支所の市民生活課課長に委員として意見をいただいたり、認定調査員にも意見を聞き、ケアの向上に努めています。</p>		<p>秩父市包括支援センターの勉強会や相談員会議に出席し、相談し易い関係作りをきずいて行きたい。</p>
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域の講習会に職員を派遣したり、パンフレットを集め勉強したり、ホームの廊下に掲示し、欲しい人は持ち帰れる様にしています。</p> <p>介護支援センターと交流を持ち、情報や資料を集めています。</p>		
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>地域の勉強会に参加し、学んできた事を職員で共有しています。</p> <p>ホーム内でも注意深く見守り、防止に努めています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は職員2名で立ち会い、丁寧な説明に努めています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様の意見に耳を傾けています。面会者は、利用者様の個室で話をさせて頂いております。運営推進会議に、利用者様の代表者と、家族の代表者にも参加していただいております。</p>		居室でゆっくりと話の出来る時間をつくりたい。(アセスメント)
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>職員が担当制になっており、毎月1回、利用者様の生活状況や、健康状態を実績報告書で報告しています。ホーム新聞を3ヶ月に1度発行し、行事や施設の取り組みについてお知らせしております。</p>		ホーム新聞をとうして、活動のご理解をいただける様に、紙面作りをしていきたい。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関の見やすい所に意見箱を設けています。権利擁護や苦情申し立てのパンフレットを事務所前の見やすい所に置き、話し易い環境を作っています。</p>		相談窓口の案内が廊下の掲示板に掲示してあります。周知できる方法と、相談員がホームにいる日時を見やすく掲示していきたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者も出席して、毎月1回の職員会議において、個々の意見を反映する場を作っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務の必要人員を確保しながら、勤務調整をしています。管理者もシフトに組み込まれていますが、携帯電話で何時でも対応できるようにしている。(車で7～8分の距離、非番という意識で対応)</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者の保守的な面を考慮してか、移動はほとんどない。情報の共有は密にして、管理者の移動については慎重に配慮する。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に参加を計画し、個々の資質を高め、資格取得者には昇格、昇給の道をひらく。 法人からは賞賛もある。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秩父郡市内の各施設との定期会合を持ち、その中でそれぞれの問題点等を話合っ、地域全体の中でも向上を計っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人の職員として年1回全員研修をする。 グループホームの特色として、職員が日々の計画が出来るように配慮している。		緻密な計画の中での運営が理想だが、その計画に一度び欠陥が起こると緻密でなくなるので検討中。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	広報、地域の声、家族との話し合い等、喜びの声を職員の耳に入れている。		「職場の教養」の冊子を毎日朗読。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と会って話をし、心身の状態や本人の思い、不安を理解し、信頼関係づくりに努めています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今までのサービス利用の状況や、家族が求めている事を聴き、どのように対応できるか、話し合いを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族の思いを確認し、在宅支援センターや、福祉課と連携して対応に努めています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得して利用していただくように、家族や関係者と相談、協力して、なじみの関係作りを進めています。本人のなじみの物を持って来ていただき、変化を和らげる工夫をしていきたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様は、人生の先輩であるという基本にたち、教えてもらう場面を作り、声掛けに配慮している。生活を一緒にし、感動を共有しています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換に努め、共に利用者を支える気つきや、情報の共有に努めています。家族の面会時に、一緒に楽しむ時間を作っています、利用者様、ご家族様、運営推進協議会メンバー、職員合同によるイチゴ狩を行っています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の思いを受け止め、両者の思いが実るよう働きかけに努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの物を部屋に置き、面会者と安心して過ごせる空間、雰囲気作りを支援しています 懐かしい場所や祭りを訪ねたり、実家のある方にドライブしたりしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係がうまくいくよう、座席を調整したり、個別に話を聴いたりしています。お茶や食事の時間は職員も一緒に過ごし、話を盛り上げ、関係が円滑になるよう働きかけをしています。		利用者様どうし、気の合った者どうしが部屋で話を出来る様に声掛けしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設に入所された方を職員が訪ねたりしています。 1年に何度かホームを訪ねてくれる退所者の家族が、ホームで必要なビニール袋を集めてきてくれたり、感謝の気持ちでいっぱいです。 入院退所された利用者様のその後の様子や状況の把握に努めています。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人のしたいこと、行きたい所、会いたい人など受け止めて、家族と相談して援助に努めています。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聴き取りを重ね、生活歴、生活環境など少しずつ把握に努めています。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの行動や動作から、生活のリズムの把握に努め、できる事を見つけています。 生活記録、連絡ノート、毎朝のバイタルチェック、申し送りを活用しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聞き、今、本人らしく過ごすにはどのようなケアが良いのか、話し合って計画を作成している。 ひなた会議で話し合い、職員全員が介護計画を確認してケアに当たっています。		
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化に際し、家族や本人の要望を入れつつ、検討、見直しを行っています。 場合により、介護度の変更申請も行います。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態変化や様子を個別の介護記録に記載し、すべての職員が確認してから勤務につく様になっている。 介護記録や、申し送りノートに記録された、ケアの実践結果、気づきの記録を共有し計画の見直しに活かしています。		個々の介護記録や、申し送りノートに記録された、ケアの実践結果、気づきの記録を職員が共有し、介護計画の見直しに活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援に臨機応変に対応している。 特養の相談員にも入所の相談をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、消防や社会福祉協議会と相談、協力して支援に当たっています。 消防署の協力により避難訓練を、年、2回以上行っています。 近所のボランティアにより、月1回、書道教室を行っています。 地域の食生活改善委員による差し入れなど、たまにありま		地域のボランティアなどによる強力が、もう少し欲しい。協力いただけるように、声掛けをしていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、家族や在宅支援センター、地域包括支援センター、特養の相談員と相談して支援に当たっています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人や家族の意向、必要性に応じて、市民福祉課や地域包括支援センターと相談して、支援に当たっています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医による訪問診療(隔週)のほか、本人や家族の希望するかかりつけ医の訪問診療や、家族と協力しての通院も行っています。 受診時に施設での様子、毎朝のバイタルの変化など、情報の提供を行っています。		受診時に、施設での様子、毎朝のバイタルの変化など、情報の提供を行っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族の希望等により、かかりつけ医と相談して、専門医を紹介してもらい、認知症の診断や治療が受けられるように支援しています。 専門医を受診する際、状況の説明に相談員が同行するようになっています。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同一事業所内の看護職員と相談しながら、状態変化に応じた支援を行えるようになっています。		看護師も日に1度巡回して頂き、なじみの関係を作って行きたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、情報を医療機関に提供し、安心して過ごせる様にしたたり、面会してなじみの関係を保っています。 担当医や家族とも情報交換しながら、回復状況等を把握して、速やかな退院支援に結びつけています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、本人や家族と相談して、同一事業所内の特別養護老人ホームへの入所も含めて検討しています。		重度化しても、ホームで生活していきたい家族と、本人にはどのような生活がより良いのか話あいたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向をふまえ、急変した場合は、すぐ対応して頂けるように担当医と連携をとり、対応している。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の場所に移られた際は、入所時の生活パターン、支援の内容、注意が必要な点について情報を提供し、連携を心がけています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々の関わりの中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者様に合わせて声掛けや説明をしたり、自分でやりたい事を選びながら、生活できる様に心がけています。利用者様の希望にそえるように、個別援助も行っています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の体調に合わせて、食後の休みをとったり、ホールで過ごしたりしているが、時間にゆとりがなく、一人ひとりの希望やペースにそった支援ができていない。</p>	<p>一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、散歩やドライブ、職員とのおしゃべり、読書など、さまざまな支援を柔軟に対応していきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容、美容は、家族がホームでおこなったり、家族が行きつけの美容院に連れて行ったりしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>テーブル拭きやおしぼり配り、インゲンのすじ取り、胡麻すりなど、できる事を一緒に行い、利用者と職員が同じテーブルを囲んでおなじ物を楽しく食べる雰囲気つくりを大切にしています。</p>	<p>食事が楽しくなるように、盛り付けを工夫したり、季節の自然な食材を取り入れていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>食事のメニューやおやつ(小昼飯)に、昔なじみのものや季節の献立を取り入れています。その人に合った、食べやすい工夫をしている。誕生日には、本人の希望するメニューにしています。祭りなどの時、お酒はノンアルコールビールで楽しんでいます。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導する事でトイレでの気持ちよい排泄ができるよう支援している。</p> <p>常に、様子を観察し、排泄の気配を見逃さず、トイレ誘導を行っています。利用者様の尊厳を常に考慮して、支援にあたっています。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>土曜日をのぞき、特別な行事がなければ毎日、午後入浴しています。</p> <p>季節感のある、風呂作りを考えています。</p>		一人ひとりの気持ちや、希望する時間を楽しめるようにしたい。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>夕方から穏やかな時間づくりに取り組み、なじみの毛布などを持ってきていただき、気持ちよく休めるように配慮しています。</p> <p>生活習慣に応じて、食後の休息の声掛け、援助をしています。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>胡麻すり、おしぼりたたみ、食器拭きなどできる事をしていただいております。</p> <p>ドライブ、お花見、野外ランチなど楽しみ方を相談しながら支援しています。</p>		利用者様、一人ひとりの楽しみを見つけていきたい。
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族より小額のお金はホームで預かって管理しているが、買い物時、支払い時にお金を手渡して払ってもらうなどしている。</p> <p>近所のスーパーに行き、一緒に買い物を楽しんでいます。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気や本人の希望により、日常的にゴミだしや散策に出かけています。</p> <p>ドライブや野外ランチも工夫して支援しています。</p>		一人ひとりの希望にそった外出支援をしていきたい
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>なじみの神社や祭りなどに出かける機会をつくっています。</p> <p>お花見、家族とのイチゴ狩り、みかん狩りなど、出かけています。</p> <p>家族と共に出かけられる支援も行っています。</p>		一人ひとりの家庭の事情により難しいが、家族と相談して支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族の了解をえてから使用しています。 手紙を取次ぐなど支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間などは定めておらず、家族や友人などが訪問された時は、居室でお茶を飲みながら、ゆっくりと話しをしていただけるようにしています。 いつでも気軽においで頂ける様に声掛けをしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送りや会議の時、何気なく行っている身体拘束や、不適切な制止行為がないか、話しあっています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	目配りや職員の連携により、鍵をかけないケアを実践しています。玄関のセンサーチャイムで、出かけようとしている利用者様の動向を見守っています。 夜間、職員が一人の時のみ、了承していただいた利用者様の居室の、掃き出し口を閉めています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の連携により、さりげなくプライバシーに配慮しながら、利用者全員の所在や様子を把握して、安全に配慮している。 夜間は、2時間おきに巡回し様子を確認するとともに、起きたらすぐに対応できるように工夫している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	普段はすぐに手の届かない所におくが、利用者の状態により注意を促したりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じた見守り、ケアを行い、危険の防止に取り組んでいる。 ヒヤリハット、事故報告書の集計から今後の予防対策を検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。 日赤の救急講習に参加に研修。(研修終了者2名)		日赤の救急講習を全員受講したい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て、定期的に利用者と共に避難訓練や消火器の使い方、通報訓練を行っています。 職員の非常招集訓練も行っています。(ホームの300M以内の職員が4名います。)		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その人の状況により、起こりうるリスクについて、面会時に家族に説明し、ホームの取り組みかた、工夫も確認していただいています。 その都度、電話連絡をし相談もしています。		管理者がシフトに組み込まれているので、家族に会える機会が少ない。面会日時を確認し、勤務調整をして相談する機会をつくりたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや、表情・食欲・排泄など、体調の異常を見逃さないよう取り組み、職員間で連絡をし、観察・対応をとっています。管理者にも異常の報告をとります。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方箋を確認し、薬の目的、副作用、用量用法を理解して、服薬の支援を行っています。 服薬時は2人で確認しながら本人に手渡し、きちんと服薬したか確認をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立に繊維質の多い野菜を取り入れたり、デザートなど水分補給を多く取る工夫している。 散歩が出来る取り組みや、歌や体操、体を動かす機会をつくり自然排便の対策をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの口腔状態や能力に応じて、見守りや歯磨き介助を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎食後記録し、職員が共有している。 水分摂取量に問題がある利用者様は、一日の摂取量を記録しています。		職員に栄養士が居るので栄養バランスのチェックを行いたい。 毎月の内1週間分を行いたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症について、マニュアルを作成し、情報を共有して勉強し、予防、対策に努めています。 利用者様、家族に了解をえて、職員、利用者様の全員がインフルエンザの予防接種を受けています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材を使用する為、献立に合わせて、毎日必要量だけ購入しています。 まな板、ふきん、スポンジ等は毎日消毒し清潔に心がけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先や建物の周囲に花を植えたりしています。 下駄箱の上に季節の小物や花を飾っています。		入り口までが20メートルぐらいあるので、案内を設けたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合った飾りを置いたり、なじみの祭りや花のポスターを掲示しています。 テーブルに座って話やゲームをしたり、長いソファでくつろいでいたりしています。 廊下には、様々な行事の時に写した写真や、全員の書道が掲示してあります。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルに座って話をしたり、長いソファでくつろいでいたり出来ます。廊下に椅子やソファが在り、一人でのんびりできる場所を設けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔懐かしい物や、自分で昔作った物を、家族と相談して用意してもらい飾っています。 懐かしい写真や近所の店のカレンダーを掛けています。 家で使っていた藤のイスなどに座りくつろいでいます。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	テーブルに電気こたつを付けて足元を暖めたり、加湿器を置いたりしています。 臭いに気をつけ、トイレの換気や消臭剤の使用に気を配っています。 天気の良い日は窓を開けて空気の入替えをしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室など、手すりが有り、安全確保と自立への配慮しています。途中にイスが有り、休む事もできます。 段差がないように、工夫して作られています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには、わかり易いように目印を書いてあり、スムーズに入れるように工夫しています。 居室の入り口に名札を付けている利用者様もいます。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭に野菜を植えたり、花を植えたりしています。 ベランダでひなたぼっこをしたりして楽しんでいます。 天気が良いと、裏庭でガーデニングランチを花をみながら食べたりします。 中庭で、花火大会や、スイカ割も行います。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的雰囲気を持った個室と共同利用のパブリックスペースを持った環境の中で、少人数の認知症高齢者が残存機能を生かしつつ役割のある、自由で穏やかな共同生活の場である。スタッフや他の仲間たちとの家族的な関係の中での安心感のある生活の場として、個人の尊厳を担ったホームとする。

- () 原則見守りの個別ケアを継続的に行う。
- () 食事等、同じ食卓で一緒に食べる等、スタッフを含めて家族的な関係を作る。
- () 生きがいを感じ、感動を共有できる行事を行う。
- () 介護サービス計画を基に、各人に合ったケアの向上に努める。
- () 職員の資質の向上を計り、明るく楽しい職場作りに努める。
- () 年間計画 無計画の計画